栗毛後駿足

上

208
2
145

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

栗毛後駿足

瀧亭鯉丈燈下戲墨
柳桐樓主人狂畫也

連玉堂

208
2
145

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

栗毛後駿足

大山道中之記　全二冊

文化十四丁丑
新春

連玉堂製本

栗毛後駿足序

後ろ憂も外ぶ之が海賊の
助と称もなく讒訴者乃
ふり線淺草寺から二人ぶ
両隆の神を拝とく漫に生り
よ〳〵と記書あたゝ

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

冊子あるを名ぢまるく栗毛の後
駿馬とぞいへる鞍ならぢ走る也
新作なるはバ鞍に地乗をなの乗
よろいふさいたる乱乃僧物と
硯の障泥葦乃鞭元上て
ちらく初小バ鳴呼奇なる式

妙なるる腹を加ゆ乱ゆ
故人馬十大名位次もそのけうそ
蓮葉女乃品宝ハ馬頭もいうんぞ
知べなる木馬玄風にいぞふて。惜
道の河そのせびとうぐも作馬の
白羽二重なるく墨き著述るのバ

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

やぐで作者の鬼鹿毛となりて
手綱引き雑ものあるべかなつぶれ
ぬるぞふらふと思ふに讃てを
おくもよ畢竟八幡年よりの霜足
千里不霊ふしかの勝栗毛乃
驥尾に付く蝿ミイ道中紀行
の滑稽を名よ因たゆりげまて
まづ本讃をおとを陸奥まつ
初山ふく

文化十四年
丁丑陽春　栉真種彦

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

○巻中目次

一 山のびくき日どりとのまちぐひまどくるゆ
二 猿七があさまくてひきゆ伊くの図絵うつゆ
三 きてとりろうりんるると牛とのまちぐひのゆ
四 るうるこの茶やるそたくひのそとをぬくるゆ
五 いそうるところ心の法懐かくくゆくくくくまるゆ
六 衛牛といつこりちぐうをかけてぬちそうふるゆ
七 るのまるそひるるようれあうりぐうさるゆ
八 口車ゆのせうまかどうさみかつがれるゆ
九 乃舟ゆの絵巻ばあけてゆ車えいざどごのゆ
十 伯と鬼とのまちぐひも往利るあんふ納る鬼のゆ

目ろくそうる

大山道中栗毛後駿足上

四海波ちぐりうなる代乃しさの〜さん。雄るの
花ゆ西四の。舟ろくゆ夏扶へ。かけてゆぐろふ
柳橋。月ふ氣生と向ふ潟。又雪の日もふ玉の
さくひさていとふ人ぞるみき。四季ふ郎この鬱
昌ハ日本一の大都會。かせぐ人の宋ハあれど。
稼人のひまハなく。精米の版や酌を英女。
鼻ゆはいてるうれとを気ふ〜くて旅あるき。

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

江ノ島鎌倉箱根山。麻布香取や湖来てうし。
取あつらえる成田へも。ちさく三日のひま費し。
姫義たるるふ富士大山とのゝ〜くそ。京
大坂ゆまとめぐりふ伊勢さねき拝び七かよ伝
ゑ三ゐ。どとへもきくもおゐ江戸さん。ヤタふそ
おうどあげあぐゐ。是もお江戸のかげるうどや。
げふありぐゐ元繁花の地。寛よ浦茶の八丁堀
九丁めふ。百福屋の徳ゐ乞湯とて。我でもるく

又雑でもるき拝人あり。ひハ六月中旬をぎ。かの
相州ゐる大山へ参詣せんとふと。ゆひさち晴ど
のゐらくの。福七とゐ子ぶんをつま。後の用さても
そとくふ。立出ゐ。福七いハ初ふるれば。徳ゐ乞へを
力ふゐへど。徳ゐ乞へも元年書山海名絵一冊
繰まゝ。たかり。本徳乞ハ初くるまど。きんさ
ふうまくゝ徳コウ福ゐそふい初ふゐ福そふよ。れも
てくげる五へハいゐ拝へるふハ拝へ。まご大山へ

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

ぜんがなんて。今度が初よ。ちょんでゐる井
ぢうにおめへがたまりぢ〳〵くそうやァあれが
こんでいるくふ。案づけへい移へ。まつたり案内を
まて出ろふサァ寝がまづ日本橋ぢ〳〵でまれさ
こつてさァおりゝくも移へ。しおめへ十ゼ犬の上へのる
べきやァく〳〵エてけちくせうめ。びろうさせやァ
がつこうきろくへを紙る。おんつまるざまでおくく
居やァぐるゆい移へ。案のきろ移へちくせうぢ。

ヲそろり首とけつの尻ァ毛ぐさんそろり移へべちやァ
移へ案おあ屋のひとへ帯といふざまぢ〳〵うねが
そうぐ犬をふんでどうぎゐつろくいんァそうく
小田原町の犬といふ。古イ志ゆをうがして彩
そふゆ志ゆをるぜ。おんまがいねぢろいくが。
ちつと志ゆれをべ案つけくいひ移へ遠乃
のがめへろくぢ〳〵ろく志ゆをるゐ。已ぐろくる
るもいろ移へくせふ。そりやァそふとさゆく疲が

あけまぶらくうとうくくてはやがはへねへそして
同若がのふ通りそうるるんど。福ふうう俳ーい
トだんく通り子をもく徒ふ見もあ弁ふあんるはどた大山ふちちハ
同若ぬの引ふくくその約ふ之徒ふくくもけがよーとあくと呑迎づふで
出ふみーが山びふきハ六月廿七日もへたあを人ぶるは五日比るるんふく
きふふまんのきんとふうもへ十七日をふ山びふきとふうもへ廿三日出
立せーもへはまご同若もるくたまく冨士日約だるるとやけど冨士と
大山とふるのちがふとちひひさきふ大山日若ちをまち合まるねて
徒へるんと福ふ一ふくのんぶいふうふぶやア福へが福ハ
胡のふを生ーがでへぶぶ福てアりふちんと約ふふ。
あんまりおふふ徒へワレ支ぶ弱のあさぶーりと

いふく旅るるとねへのハをんるそふぶ。ふるもぬるると。
あをる
あを菜ぬちほぶてアるんでもるれているおをふちぶるふ
せへトむせうふ体ふぶるハをへいふてもるの猫あぶるるれが福ヲイ
大山るるを約合せる福七ハ徒ふふふふをへが突ふふふちふぶと
そんるるふ一ぃふくもふふふそふトふ川とふふふる菜庁今ふせを菜屋
おふふハいぶ拾ーほふトふ菜を徒へアイモウ何時ぶふ子菜ハイ
拝行ケふいでハゆりまへ。あるふ方ハどちふふふあをで
ぶぶりまへ徒へいちちふア濱菜ふでぶぶりもとが性男が
初山ぶふふ。小ふく出るけ中たコウ福ふ支が中稿とふ

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

ぶが。たいねんせ（福）よ〜ねんるぶんのこりい中掛と
ちゃねんでどふをるのの。田舎ゑんまやアみんめん〜
（極）そまでも。案内を〜てられろと。たのんざらあ〜
へくあのご（福）りやア先のてのるもざア（極）ア内ハえろ
ていやア（極）ちつちやア居るごろあげ大山へ行ゆそ。
初て通るごろふ（福）口の通ふ（福）へ上りハアコイ
あちさん一ちんる（業）ハイく（トン）湯を（福）あふ上ちこちつア
ゆござアイく（業）ハイあるさあ湯ヲト（極）ふ三のつも大山へ（極）トキ三のつも大山へ

布引（ぬのびき）だが。なぜ今（けさ）ハ通（とを）ちゃねんの（業）ハイ大山（ごさん）病（ゑん）
のお丈（ゆき）ハ後日あつりでるそれば（ござ）ゆりません。只今の
うちハ富士（ふじ）冠（かぶり）斗りでござりまし。あるさ方ハ富士へ
ちけ。病（ゑん）なさりまとち（福）イ上大山斗（業）そ上と
ふいさ〜くハおイお立（たち）ぐことさりまと（トのるとこ（極））
（極）山開（やまびらき）ハ十七日だちけの（業）イ上北七日と中上でござり
まし（トいるとこ（極））ねちゃ（極）ちゃ（極）ちゃ（極）九七日（ちとそ）迫（きんれん）業そ。
でぶ山開（やまびらき）ぶあれる（ト後七が方とおいてい（福））ふ七ちゃ（極）今（いま）ごろ

いつちやァ初山ゆなろふね（孫）パイ道ゑるゝゆお生
なるされば明日ハお母へお付たなるさりまをとがまだやァ
山明き近御師ゆはとうつまうでゆるさをねがるり
まをとゆい（福）コウ（徳）さんあんまり。ゆく〳〵おりけさだやァ。
ねんう（徳）何ゆいハ承知ぐがぬしゝが初山とゆふりんざうゆ。
どのでも道ゆ乞まゆいるうゆ。ゆる〳〵ゆんあさせゆふと
ゆ川ゆ（トまけゆしんで居れ（福）内又湯ゆうんぐうる）ハアゆゆうゆ初ざゝ〳〵見で
あつと。同ゆさめゝ（徳）さん又子ゆ近ゆ（孫）斗呑せちやァ

蛆ねゝ三度ゆ三度ゆを聖〳〵呑せるとゆるゆと手を
つゝしゝ。芝の中ゆゆるつゝさの（徳）ゆ屋〳〵ゆうゆ。ゆ川ゆう
孫代と孫ゆだうせるのゞ。道ゆ中でんるゆゞゆゆゆる
るゆだ（福）〳〵ゆゆ人斗ゆ中の孫ゞゞゆまゞゞゆゆ江戸
だゆゆゆふゆ丈ゆゝゝされると。孫ゆゆゆゝゝねゝヨイ
ゆうりを入レて。モウ一ッ盃ゆんゆ。とんざゝ（徳）さんモウ
一ッのま（福）ゝ（徳）イヤゆゝゝァゆりと母ゆりゆられ
ゆゆふとゝゝ（孫）ゆ（福）ゆゝでゆ。彼のゝゝゆるゆゞゝ。

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

後へ　ヱてあるへ由ちとうこと　たヱ牛いみぜ　時ゆのんざう
そろ〳〵　おうけよふ　後へ　ム〳〵よろろふ　後へ　ヱアようろう
ござりまん　ゆうりとお体拵　お湯をもウあ一ッ
後へ　アイモウ　ぢちそふぐ　筍ぐうう〳〵よふふるり中た
ト業代　をあき　サアおうけべヱ　後へ　アイあ世話　よふあのぞ拵
まり　たまさあ久りゆ　後へ　後ヱアノ亭うぶあん
まりゆとのませあで楽筍とうんご
後へ　かれを歌なうん小川の湯とうむあ〳〵

後へ　分ぎでき毎川ゑ　あるうぐ　ちのうぐ〳〵ん
後へ　〳〵正三位家隆で毎さ　そりやアゆがどふも
ゑうじのあんぐいがゑうく〳〵てゑうう子ゑ　ゑいどふでも
お人ぐうナ　和ご　後へ　コウゑうく〳〵ちゑ毎をづと　ちきさうを
さう〳〵　あ〳〵あうとふうちうぎき豆ゆるう　ゑ中ハ
見が元ゆご　後へ　ヨイそんるうちきゆそふそろく〳〵
ゆきナ　トゑうじとゑ〳〵ちゃんで　エイシッシ〳〵　トうけまり〳〵ゞ
後七が　あゑまとけとゑじゑくゆ　後七ハ　後へ　ヤイ山ゆろふゆうぜ人を
どうさう　風のちをつきぐうゑうしてたちとう

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

はげゆてぞうて紙アぐる。まちやァがれぐとあつうけ
紙　和紙へヲ　紙エアまつくもゆうふが五葉の刑限が
きとろとうぬが箭ゲとぶぞ。まゲ和ぞふ。返も
紙べエトまる紙ヲうぐ人は五つる五葉挑灯　和へサアけへつく
ゆへぎうりとてちうげうくりうく居ル
来たが何の事だ　後へバイイエ私の天窓ぐあるこ様の
はヲウイぶちまたゆへあやまるうふとぞんぐまーうく
ト大名中へくとつけが雲かもあにくうり和へ今度ゥ大名中へ
結ふ大切の御脇差見ところせくまく
どこまァ知ーくあきやァるナト言紙の草で後ヒが
あこまをコウチリ　ちようふ

たうをめトうくをてさうさとうみのぐる　後へどふ
ところへ後ろ後ろ紙も立りどり
ちこ所ろいめへはいあめへがヒうふじと毒せとうこ斗り
で。とんざめあのさァいそへ〳〵　後へどこぞぶされ
ちう後へイニヤあれがあこ毒ぐ。あうが是をぶりさ
りんざうふ言紙であれが。て密ヲぶうこうう五ふぐ
よ後へいくべらがうめへみんるうをこうぶをこり
ちこのざうるい男ざ。あをこざとうを毒をくつてうり
ざーてゆげらァ後へとんざるをとうねへゆげざーた

とりく。羅紗ゆかるうめの。つうま紙ふめのなうう。
あいつへたぐ雲助でも。五葉がおいうふるくしる
と。首ぐるくるうア猛そんる首へるくなつてもいく
ぎやァねへう猛ちゃ五ろさんる。ぐんぎでもエさう
ちやァ天宮がいくくて。ちのうねへ猛見のいたむを
るををとうく。あこまといこめるもいくおりれへく
猛エくよ猛へ。何おり見へとが有ののうトブウく小三ヨ
ゆより弥市川辺より日本橋へ。青
猛エイこいこくく猛こしまた

ぐ。快笑ぐぐで猛モウ快笑ゆいこりくくたトウこうきの初おくこん
ちぐこまりようくくこんぐ猛青竜うぐぎこ大色ろ
初鰹をうるゆふ。べらぐゆふうけやァぐる。ちんぐう
おどけぐ分く。歩行まるりんぐやァねへ。ぐくおるこん
るまぐいくトぐんくり猛ゆ猛ぐうぐぎぐるよこてうを猛ゆ猛ゆ柿猛ゆ横丁ゆ一つづく
あれ芝の海といふゆぐ有ぐ。よくいうこぐやァねへう猛ぐんゆ
横町くいこんちよ海ぐこへるるる猛いくふこを
見分るりんぐ。ぐこ甚ゆつくく。一つ首うんだ。

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

（絵）「江戸子の紅唐きもこなりまし。
安房や上総そよと町りあり
（絵）「猫つらいい。時ゐ赤ぐちらんで来さで見えが
見へく歩行よくちのつ。サア見うら芝の田町と
いふあぐぜ（絵）「コウ後生ごりう。江戸の楽問い色ごよ。
（絵）「いいサアくぐうぎと牛をゐいく来ごんな
ぞうぞを付ケゐゐくのご（牛）「ミイ引く（車）「ぐらり
くくく（絵）「今足とるく垂てり（絵）「ちつとまくら（絵）「変人
（絵）「何をとる（絵）「変が強るをとた面ごは牛のくそをとるビ
のあいごへ入れと見の猫つをさまはく。夏ちるぞも
出来ぞ。大一の茶ぐ半猫ゐるビを反て入さら
（絵）「てきたねへるゆをとる。あくうァいやぐ（絵）「ハテ赤のの
ちとい何きたねへあちるゆやァ赤へ。見へ行る斗
ぐうりいるゆいねへくう。来くふまつせへそこが
見へといくくるとあれ遠ちんぎぐ（絵）「ト云て猫の
り見とくうく。何云信ゐるも赤のどくと思ひ見那ちくうらビを
とうぐんゆりと猫付れと見のた右へちこ半くふまでかる

極へて家康のゴりいアちる極籠ハうねのゝ。こさい
めだ。大山へ行ゆせへしくくいぐらゝ。伊勢へでも
行ゆへ。雲隠へ一ト晩も是をつけく。ゑゝぐるるゑへ
ト叛とゑくめくゴゴゴのひもとつまんで居れ五へ平方あゝんぐるアゝ
又牛車きをりしていをゑくきもとつぶし
あゆようさゝゑ。きた極へ人ぐ極何是ゝこれハ
是のいさまねへ。まだちるのよ。平方アニあてこもねへそりやアゝ
るゑんぐアナニこんる馬のゑゝそがゑゝあゝ平方ヤレ極そゝ
それハ牛のゑゝそゆ。ちげへハねへが是の業ゆちるのハ。

馬ゑんぐアトいゑるよ。牛の屎ぐるんゆるるべエ極ハテナ
あゝうア牛の屎と笑さぐ平方ゴゴラアねんぐ業ゆ
牛をせへちゃゆちるが。是牛近牛の屎ぐゑゝとりゆ
るゑゝいゑゝゑアゆさゝとぐねへるゑんぐゝ極是の
極へをさはゝく。業ぐアといゆゑゝぐそりやアゝゑ其
ゑ遠ぐんべゑ。ヤレ〳〵きたねへこんぐト右第て極ハテナ
笑ちぐへゝちゝくん極コウ〳〵極さんたへんぐゝゆへも
きいゝゑゝるんぐゝんぐゝるべエ極ハテナ〳〵ゑゝ

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145
ガラス使用

ちゃうさがねへ。ねうだう斗ぢやァ。極へ。なれもしを。とを。りざ。俗。なへ。
くどのまいざられどいやざといふ。あをとまでふんどま
せくいめへまーい。菓ざと。ぎて。せへきたるくてくー
ちゃうちゃうんざふ。ぐ。ちぐ。遺ぢやァ。ちゃうくーとてへらをねへ。
山。あ。ヲどふせう。極。どふとるのうせへいうくぎふ。
屋へそれでも牛の。うし。屋。そ。といふ。ゆ。ぐでねへ。ゆ。句の。
るゆ。ざ。ちし。れ。も。ち。の。の。名。ぐ。ぐ。仕。方。ぐねへ。
俗。人。ちゃふ。た。屋。ちゃん。ゆ。ケて。名。ぐ。ぐ。あ。ぐ。あ。

極。それぞも。田。町。のふんぞんざと。いうちゃァ。名。代ざ。
俗。ちゃちゃと。処。ぢゃァねへうる。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ちゃうァ。朽。ぎ。ちゃうじを。ぢ。百。ぐ。実。てきたゆ。
上。方。遊。倩。合。ぢといふ。ちゃうじを。ど。ぢ。の。内。でもそねへ
ちゃれがるうう。極へ。とんざゆ。合。せる。極。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
あ。ぢ。ぢとうくうる。ぎ。ぢ。ぢゃァ。ぢゆへ。てァ。おく。
菓。ちゃ。ぢ。ぢへでもよんうく。洗。あ。さんぞんゆ。ぢ。俗。ぢ。ぢゃァ。
モウ。ぢ。ぢがをくんざあるうれねへきんてうれちゆり

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

さくるくさ　トあ人そビみなりんるあ形ゆくちみ〜
大ホテル　追来れ　性原ゆく　病ゆうりと的ゥあるの
業屋ゆて女ゆ　お体そ〜　お仕度でもるさりま〜。
ちちぐゆ　ちそて　あるご
宮子の取立ゐ者の形しいのもでございます。おそのり〜
絵　サア徒さん　そで洗ふ〜いうみ　徒　ちさア遠入らど
とある業　あるさあふござります。サア見へおより
やへそる　るされ　ま〜　徒　コウ姉さんそちとちんねへあ〜と
洗ふねへだやァあゞれ絵へ　ハイ〜ってあそよどん。
おそ見　とあそはしるさる。あたくらいへ湯　とんでおよゲ

ハナ　ハイ〜てアおそへよゞそまし〜てもよろしう
ござります。これへあよりちのさりま　トたくらいへ湯とんそ
一たい絵ていゆそいはそびのまく支度なゞるさ　ゆちのよへそふいをちく
中の業の一でり業り上ゥて金ゐ人ハえんつまもるく〜ぞろ〜
より洗ふ女ないゆ　あるさ方だのぶおそがゞごそまし。
よゞそ見　とおひのみゐ
どこゞ見ゞ業ふござりま〜た　絵　道ハ悪くねへゞ。
ちくとすぐちなひをおそごるのく　ヘエトけゞんな部
絵　徒さんあへまで洗ふりきた絵へ其ゆをとのの
たくふいへ入ちやァ洗ぐ洗ふのハけ絵へ　徒　イくハ

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

てアざんとうハ浜ひをとゝ。まゝと洗ゑをとゞく。
海ゞまをとゝろ。さゝぐゆつくてりゆ。ト女の足ねまゆ中ゑ
処をゑごき分ゑ足をたゝゆへ入ゑさゑきたるそゆ
足とゑゞぐゆんでゆるとゝろへ表のゝさゝりる方ゆ。
るアどゆゞ川渡迄ゆをとゆでゆるべエ。イヤるハゝゝねへ。
モウ〳〵きたるゝゝそ〳〵。アニゝゝゞるゞきたねへ
あゝそれよりやアゆへゞアゆ牛のゝそゆせへのゝゆ
ゝやゝさゞやアねへゝへゝゝとゆゝ分どゞゞとんゞをとを
つゝアナニたアゆゞをなんゞ山屋〳〵ぼゝゆめ。

ゝゝゆのゝとをゆゝゝと
屋敷中ゝゝゞゝけゆる
女ゆゆ
ゝゝゝえ。アヤゆるゝ方の足のハ屋へ。それをゝゝゆ
ゝゝゝへゆ入るゝるゝゝ事ゝゝゝアよんべ借る町へ泊く。
今紀田町とゝる時ハ荒を見ゝけゝゞアゞダカ牛の屋
とゝねゝ〳〵ゝいゝけゞゝりやアハヤ朝ッたゝゝゝゝ
るゝでゆゝとゆゆでもつまゝれゝゝ人ゞアとゝゝゝ通つて。
ゝゝたゝトまゝを出ゝ亭をゝゝ亭をゝゝ
ゝゝゝゝゝゞゝきりをゝゞゆ
荒ゞ牛の屋をゝんてきてゝゝゝへつゝゝまゝゝゝゝゝ。

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

あんまりぢ。そそそれけてそこの板へもろくいさァまそよ。
ちろぢうきをとりてこい　亭　ハイ　亭　ア是ぢやァねへか。
ぢきをとくろふきだハイヤハヤ軟ッちくくらいけそく
でもねへ。内中原だくけふされふ。コレ久助やさァくそを
二三ぞうんできてぶん流してろをろコロ〳〵こんな
ほうきをとげろコリヤ〳〵　天丼へそねるハナゼ甚福ハ
ろうきをふり上げるのぢ。たそをあげろとふとだね。
ヤレ〳〵久助ハ又こんびぞ〳〵とのくそ学ちんへ

何〳〵ハ紙ハ　亭　あるん根アくそを三三ぞうんでこいゆく。
らうちぞるくふ　亭　ア　ア　ア

そのうち見くらをつりあどりやせう〳〵イエ〳〵
朝ッたらふくけちを拵らまと人みあきるのふまま
せぬ〳〵おイそれだやアどふもあるとゞ銭〳〵トゼふ三百
〳〵コウ女中見ハをけねへがどふぞたらいをとりて
くんるせへサア銭七出りけふふゆげあどだ〳〵いけをたく
でも銭へせりふだ。おく塩をのりてこい
銭〳〵あとあのあ年ーとえねへ塩花をふりやアるゝ。おあへ
のあるげどとんざめふあるこいまゝしい〳〵十二あるとゞ

せへるのの。てめへがさらいをふまぬいさのめざるふ。た
さこぎゆるるこのざ〳〵銭〳〵そりやアそふでもえをとへんが。
あへへがとんざとをあへさ牛の屎をふませたりんざふ
よりて。たらいもりさとりみりんざ。それざるふア三百ハ
あへへざーて垂る〳〵たるアいるるー牛の屎をふんだ
牛るふ銭いらふねへそれどたらふをとをぬいさふまるく。
銭ヲあいさのざるふてめへあんがらい〳〵銭〳〵こりアるるねへ
よくんがへるくるんる牛の屎せへふまねへをだ。さらいを

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145
ガラス使用

ろうるもんぢもねぇ。そーてあれゲ初めざぐらかりてを
ちらねんの何のと。あるとゑ斗るをとり付けたらら。
あをとぢやァあるとだろう。家のきろ極へのくやうゑ
るりたらう。ちゑんいよりつ極ゐりゲいてちんでもおゆへ
あーて来るせへ極いろへまーいそんるのらそうよこ百
たぐゑんざろうをた醤つを塩茄がおまけざ一ッ生
うまるりんぢやァ極へそーてあらァまぢをゑゑらいそ
いるろうよく洗ゑーてくんざ極へそゑよあをともまだ

ろんとうゑあちねーよゑで。家味がゐりいコウいてあん
たのゑ沢ゲ来ろうう海へ極へつてよく洗ゑ極へうをとりう
ぬぐ爰であらやァろんとうゑさうをるざろゑ。
イヤちらしぶーーといちやァつまろうねへ極へたらァ
いゐ海といゑりのいとゑあさで五丁や十町ゐりてゐ
どうりゑうゑ人面ぢやァ極へイヤーーあるくのいゑ
ゑ六面テゑちるうね。モウとりーーした極へそんちるら
ねーーやァよさうーーあいゑァをうをりを洗ていとう

ト柿ヨウ反ゑんぎまり　徳ハ　見こんさん　あとを
あり屋ゆ　ゆ　ひるがら　山屋りざ・えりまで　三里近い
水ハねへたらいとろうく　ゑんたん・ゆりしてゆぜ　トかうげ
あろうとうとうさのと　ゑ　ふひきんてゆ　ふろうそふろ　トあるすく
ふろき　ねるよゆちのきた　柿まるどえ　まるど
ちらぐ　ぐんぎとありろ　ゆろうゑ　ゑゆがん　ぎと二ぢ　ゆーて　ゑ　服箱
ゆ　近あり　ぐ　洗ろてゆろ　ゑ七ハそれとゆちろぐ　海のそところく
ねつうろう　あさい　あざ　トあくゆ　ゆろ　ゆ　ふこ　あとこ　ねぐきを
うろうえく　ゆろうゑ　ゑゆろ　ゑ　ゑ　ゑ

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用

（強）コウ〳〵姉さんさらぐるアねへ。あのアあ茶ちゃん
でもなあるひぐもねへ。向の海でとりをとるさのご
うらあんどるさんるてアはもとへのをとりてくんな
せへ（トいうまくあり）（女）ハイ〳〵めへりまし。たてア
あ茶と一ツ（強）イエモウたべやたくいくへとあをのを
やたらう（女）ハイたばるのうあめ〳〵ものをわ〳〵ませう
（トまあ二つくらいたべる人）（強）コウ（女）ときまま
美味ひらぐんるくらめへく（もつまらう）（強）へ
者ぐとんぐめへ合せてぐ（女）そそだってあをも

一せうんめいぐとらくさうおめへの足へかぐり利さ。
ぜんてくあへがいろ〳〵るをとらくあ〳〵くい人を
とんぐめへ合せるてもるくあめへ引ぐりこあを
さあ同ぐるだ（強）はのへうねへるキいへぐ。ときあ
美あのもう問る麻を新をとてもいうをとめ酒でも
呑ふう（強）イレニヤあらアぐ猪がは通りぐさちきを
そふぐうう。モウ〳〵呑と安ちゃアるんでもいわぐ。
（強）それぐとうく。茶屋の足せをあさげく呑喰

せどめの家のどくだ。せんごりの花祝義ふちと
御神酒とゆろふ　そんちろうこざろと毋ろうそふ。
ヨイ　姉さんどふぞいのを二合斗青いるふがあり
女　ハイ〳〵　鰹のあさ〳〵をあぐの堀鍋の拵る
の　ヨイそをとあつてくんるせ　女　ハイ〳〵　ト純子
お茶り者も　女　ハイ　一つめ〳〵上りま〳〵　只今め〳〵めも千
まのをとトいく　ドラ〳〵　一ついつでころうヨウトきたく
ト一トロ　アイ〳〵　何ぐるんと　ちろうきるりんだぜ。

ちなぜ〳〵　イヤくごを〳〵て呑のと又さろきの
よふふ。ろを呑のへがうせくるちぐんぐ。ぐいく〳〵
何をいふとゆがあり〳〵くゆねぐをきんさ
をだそれゆあろうきゆ七つまきゆるあろ　イヤそふ
斗でゆねぐア呑ぐんさろし大きゆいく　る庫く
ちゆ。まぐそんるをいふよ。ちるが徳さん　きい
ろ〳〵ろさが今とるろちやアさんぐりちくいぐ。
茶のの近ぐろうさろ是でまぐ手の庫一体を

ねつきりそろきりだ（徳）そふとそ〳〵そをどろ
あるとこが（徳）ことごとあるとちろさのう。ありろくもねへ
トろをとをを合てゐるまゐ（女）ハイあるゝ〳〵めが千まゝさ
ひとへものの千あがり
（徳）是〳〵大きゐ世話ぐどざりゆた。時ゐ
（女）姉さん一ツのがろねへろ（女）あるがりとふどざりまん
がりとゝいのろふぶ御法ぐゆ祭りまをトとくそをきを
ろろそふをと（徳）ふりそへり（女）コウ爰のあろうへまだあのろと。
ふりそへり
家ちがへろ。狐付のあろゐふ川て居る狐子ぐぜ。

（徳）そふさいまゝ〳〵ちいあろうぐよゝ〳〵とてゐ狐付
ぐどふろうあのあを一ケだんあどしてちぐりゐ
ちぐエ（徳）イヤ〳〵モウすてくんる又ろくるをとをる
るちぐアねへ爰ゐ又ちいぐさをるよゐぐどるを〳〵
いゐへまいゐ〳〵ろるふぐまろ平ぐよ世いきあひ
でおくおろけよゐ（徳）サアそんるろいく屋へヲイ姉
さんくんぜうしそくんる（女）ハイ〳〵銭百八十八文ぐ
どざりまん（徳）アイサアそんるアゲてくんなせん

208
2
145

トゆんぜうのあと
第代百又たづこ
まゝさまざまあり

アイあ世(セ)信ふ教母(ゐり)
第代(よ)ふあ出(そであそば)
ふ(ト)ひ第(ゐ)ふ(る)ふ(と)
ふ(ト)ひ第(ゐ)ふ(る)ふ(と)

きぬぐとゝろ歌ふあ第ん さ義ひ(ゐ)りをそ(ろ)せし武士あそば(ゐ)ふみを
ふくと信ゆあ(ゐ)ふのがさぬぐ まべのむりどさく ゆきつ(ゐ)りふ和ひと面白ふ
中ゆあれ偶家すり 立出れ去世たどりの第男子と付そひ申ハお方と
ふくいきご二八の花の歌寂をだを〜まく送りいそたづひとあありとしげふ
とださえふ〜又のあゆをと同歌ふちふみ和歌ちふぬ女人ゆさとて名誉の
あ〜ふふゆとあ〜そふふく

強七

ふられ路をたづひとあ〜とふより
ものいふとぬるぞくふ〜四歌麗〜

栗毛後駿足上終

きつゆぐ〜ゆ分れゆをたゆふれたゆ
ゆふいひ仲ふ〜ゆ〜ふ〜ふ〜ふ
ふられ路をたづひ神をたづひとあ
ゆくを仲角ゆをふ〜ふ〜ふ〜ふ

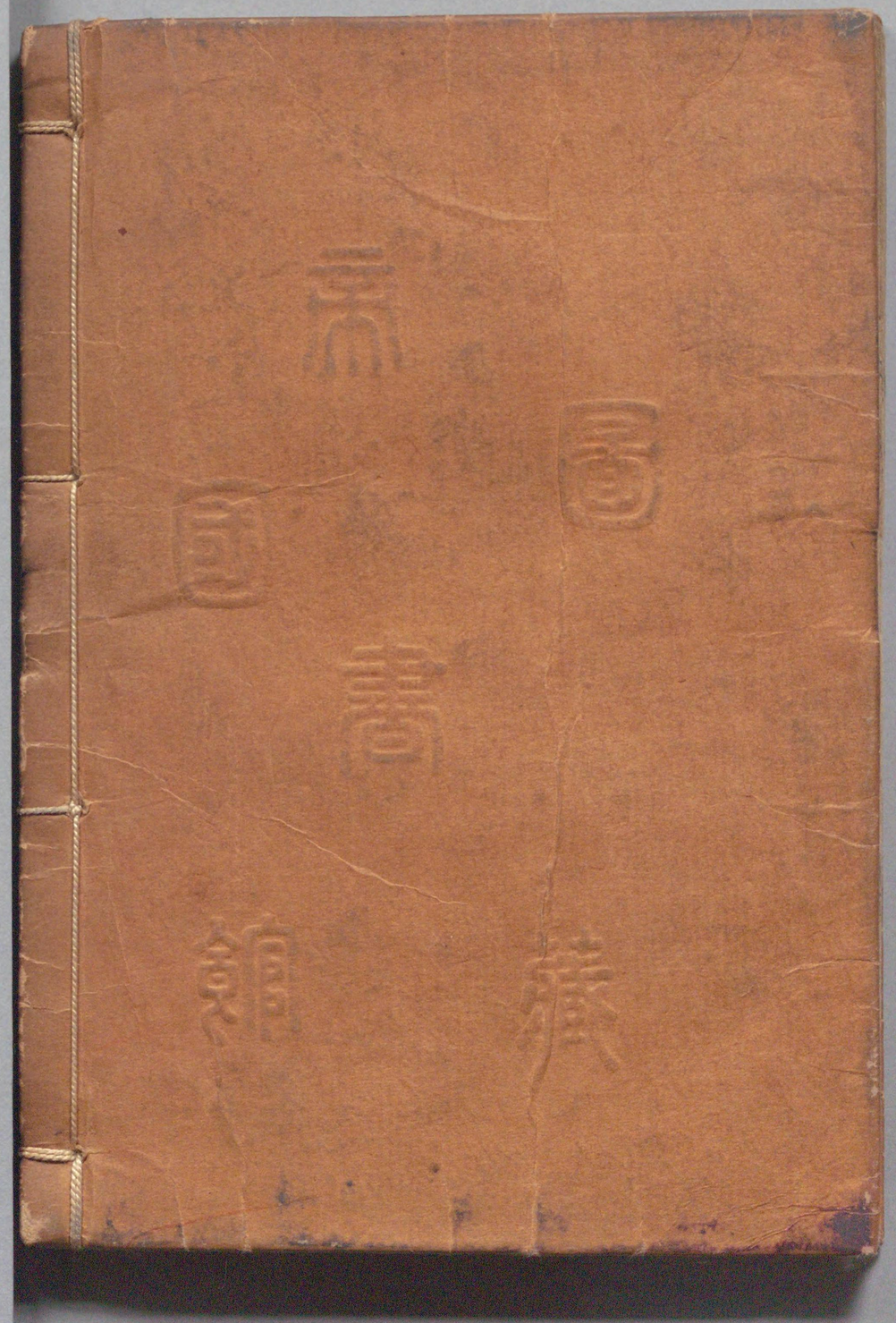
大地や恵八ッ礼

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145
ガラス使用

208
2
145

国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用



国立国会図書館　栗毛後駿足 208-145

ガラス使用